

1 1月定例記者会見の概要

1 日 時 令和2年11月4日(水) 9時30分～10時30分

2 場 所 本庁舎4階 議場

3 出席者 <報道機関>

毎日新聞社 南相馬通信部(南相馬記者クラブ加盟社)

河北新報社 南相馬支局(南相馬記者クラブ加盟社)

共同通信社 福島支局(南相馬記者クラブ加盟社)

読売新聞社 南相馬通信部(南相馬記者クラブ加盟社)

福島民報社 南相馬支社(南相馬記者クラブ加盟社)

福島民友新聞社 相双支社(南相馬記者クラブ加盟社)

時事通信社 福島支局

みなみそうまチャンネル

計 8 社

< 市側 >

市長 常木副市長 総務部長 復興企画部理事 健康福祉部長

経済部笹野理事

(テレビ会議) 林副市長 教育長 小高区役所長 鹿島区役所長

復興企画部長 市民生活部長 こども未来部長

経済部長 経済部中目理事 建設部長

総合病院事務部長 教育委員会事務局長

計 18 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

皆さん、本日はお集まりいただき誠にありがとうございます。それでは、前回(10月5日)の記者会見から最近までの出来事についてご報告いたします。

まず、新型コロナウイルス感染症についてです。

市民の皆様には、日頃より、「新しい生活様式」の徹底と継続にご理解とご協力をいただいていますこと、誠に感謝申し上げます。

市内では、9月19日から11月2日までの44日間、新たな感染症患者は発生していません。

一方、県内においては、10月の新規感染者がこれまでの月を上回る135人となるなど、厳しい状況が続いています。

先月の政府の感染症対策分科会の提言では、感染リスクが高まる「5つの場面」として、「飲酒を伴う懇親会等」、「大人数や長時間に及ぶ飲食」、「マスク無しでの

会話」、「寮などの狭い空間での共同生活」、「仕事の休憩時間など居場所の切り替わり」が挙げられました。また、利用者やお店に対する「感染リスクを下げながら食を楽しむ工夫」なども示されたところです。

これから年末年始が近づき、飲酒に伴う会食などの機会が増えてきます。分科会の提言などを参考に、お一人おひとりが感染防止対策をしっかりと行ったうえで会食などに参加いただければ、ありがたいと思います。

次に、イベントについてです。コロナ対策を実施したうえで、次のイベントが開催されました。

まず、10月25日に、第8回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭及び第62回相馬地方植樹祭を開催しました。今年は、新型コロナウイルス対策として参加者を市民に限定しましたが、約200人の市民の皆さんにご参加いただきました。

また、同じ日に、第53回福島県サイクルスポーツ南相馬大会兼南相馬ファミリーサイクリング大会が行われ、市民を含む約150人の参加者が福島ロボットテストフィールドなど市内文化財など各所をご覧いただきました。

11月1日には、本年6月に市消防団が受章した「金ばれん」を改めてお披露目する祝賀パレードを実施したほか、11月3日には、市主催の令和2年度南相馬市表彰式を開催し、13人の功績を讃えさせていただきました。

次に、平沢復興大臣の訪問についてです。

10月8日に、平沢復興大臣と亀岡復興副大臣が本市へいらっしゃいました。

当日は、本市の復興にご尽力いただいていることについて、改めて御礼を述べさせていただきました。

また、原発事故に伴う復興に向けた取り組みに関して、南相馬市では各区で状況や進捗、課題が異なること、生産年齢人口が急減し、若年層を呼び込む政策が急務であるという点をお伝えしました。その上で、今後の継続的な支援や財源確保などについて要望させていただきました。

続いて、今後の主な話題について触れたいと思います。

まず、学生支援の取り組みについてです。

市では、11月10日に、JAふくしま未来の協力の下、ふるさと学生応援制度市産米発送式を執り行います。

これは「南相馬市ふるさと学生応援制度」に申し込んだ学生で、親元を離れて市外で生活している学生を対象として、南相馬市産の新米10kgお送りさせていただくものとなっております。対象となる学生は630人となります。

当日は、生産農家から学生に向けたビデオレターを紹介するほか、遠方の学生とビデオ通話をつなぎ、学生を取り巻く現状などについて伺う予定としています。コロナ禍の影響を受けている学生の皆さんに、地元産の美味しいお米を食べて、頑張ってくださいと思います。

また、ふるさと学生応援制度と併せて実施している「市学生生活緊急支援給付金」ですが、10月末時点で受付が完了した方は383人です。支給対象となる方

がまだ多くいらっしゃいますので、引き続き、制度の周知に努めてまいります。

次に、小高区のイベントについてです。

秋のイベントの多くが、コロナ禍の影響で中止となる中、市民の皆さんを元気づけ、市民同士の活動の機会を増やすため、11月14日に、2つのイベントが開催されます。

一つ目は、小高観光協会主催の「あかりのファンタジーイルミネーション in おだか」のオープニングセレモニーです。小高浮舟ふれあい広場において、午後5時から開催されます。

また、二つ目は、小高交流センターで開催する市主催のウインターフェスティバルです。このイベントは今年初めて開催するもので、当日は、自転車のタイムアタックや射的、輪投げなどを予定しているほか、広場では出店も予定されています。

次に、敬老に関する話題について二つお伝えします。

まず、11月20日に開催する令和2年度の市金婚祝賀会についてです。今年度は、10月26日時点で32組64人の方々にご参加いただく予定です。

次に、敬老記念品の支給と敬老番組の放映についてです。今年度は、各地域における敬老会の開催が困難な状況にあることから、今年度75歳以上となる皆さんに対し、2,000円分の地域商品券、および市内障がい福祉作業所であるほっと悠、ビーンズ、あさがおで作成した記念品をお贈りする予定です。併せて、南相馬チャンネルで長寿を祝う番組を11月6日から放映いたします。

商品券などは12月中に順次郵送する予定ですので、ぜひ、ご家族・ご友人との語らいなどにご活用いただきたいと思います。

次に、福島ロボットテストフィールドについてです。

11月24日、福島県主催による令和2年度福島県総合防災訓練が福島ロボットテストフィールドで行われます。

これは、災害対策基本法に基づき行われるもので、今年度は台風上陸による浸水害、土砂災害が発生した想定で市街地フィールドや瓦礫・土砂崩落フィールドを活用した訓練が行われます。

続いて、12月6日、「ロボテスウォーク2020～いざ参れ参れ～」を開催します。

これは、2021年度に予定されているワールドロボットサミット2020の機運醸成と市民の健康増進を目的として実施するもので、福島ロボットテストフィールドの各施設を見学しながら、周囲を歩いていただくイベントとなります。事前申し込みが必要で、締め切りは11月27日となります。

なお、ロボテスウォークの開催日はオンラインでの開催としています。「野馬追の里健康マラソン・ウォーキング大会」の開催期間と同じ時期となりますので、併せてご参加いただきたいと思います。

【各部からの報告】

特になし

【各部からの資料提供】

小高区役所

- ・令和2年度「あかりのファンタジーイルミネーション in おだか」
- ・「WINTER FESTIVAL」の開催について

総務部

- ・ふるさと学生応援制度新米発送式の開催について

健康福祉部

- ・令和2年度南相馬市金婚祝賀会の開催について
- ・南相馬市敬老記念品等支給事業の実施及び敬老会番組の放映について

経済部

- ・「南相馬市産業創造センター」オンラインイベント開催について
- ・ロボテスウォーク 2020～いざ参れ参れ～の開催について

【質疑応答】

質問1：

ふるさと学生応援制度登録者823件に対して、新米発送対象者630人とのことですが、差が出ている理由は申請をしていないということでしょうか。

回答1：総務部長

市内に居住している学生や市内から市外の大学に通っている学生、市内の学校に通っている学生は対象外としており、そうしたことで差が出ています。

質問2：

ロボテスウォークのテーマ「いざ参れ参れ」は相馬野馬追から来ていると思いますが、当日のイベントで馬は出てくるのでしょうか。

回答2：経済部理事

馬は出ませんが、相馬野馬追の甲冑などの展示を行う予定です。

質問3：

インフルエンザが流行する時期になってきましたが、新型コロナウイルスなどと併せて、対策などを予定しているのであれば教えてください。

回答3：市長

インフルエンザの予防接種については、10月上旬から医療従事者を中心に無料接種を実施しています。また、10月26日からは、一般の方への接種が始まったところです。こういったことを適宜周知すると共に、新型コロナウイルスの基本的な対策として、マスク、手指消毒が有効ですので、そうしたことを市としても徹底して説明してまいりたいと思います。

質問4：

市産米については、現在の売れ行きや作付面積、今後どのように市外に売り込んで、食用米を増やしていくつもりか教えてください。

回答4：市長

市内の作付面積は、今年度、震災前の6割に当たる約3,000ヘクタールとな

るなど、震災後に出荷量が0となったことを考えれば、大幅な回復だと思っています。

取り組みとしては、除染・除塩で将来に向けた基盤の整備や農機具等のリース事業のほか、国・県補助の活用といったところで伸びてきているものと考えていますので、これらを継続してまいります。

水田の作付けは地域の再興において大切ですので、食用米に限らず、まずは水田を再開すること自体が大事だと考えています。より付加価値のある収益の上がる農業に向けて一歩ずつ進めてまいります。

回答4：経済部理事

売れ行き状況は今後報告いただく予定です。

質問5：

昨年の台風19号の被害を受けて、職員行動マニュアルを整備したと思いますが、今後、どのような覚悟で取り組んでいくのか教えてください。

回答5：危機管理担当理事

本日、サンライフにおいて、職員行動マニュアルの研修会と福島地方気象台の地域防災官を招いた講演会を開催します。本日参加できなかった職員に向けては、撮影した動画を周知する予定で、今後は新採用職員などにも見てもらうなど、マニュアルの内容が確実に身につくように取り組んでまいります。

回答5：市長

職員行動マニュアルの周知は行っていきますが、マニュアルの冒頭にも書かれているとおり、「市民の命を守るため、従事する職員の安全を守らなければならない」という考え方を共有することが重要です。そうしたことが当たり前となるように取り組んでまいります。

質問6：

苦言ですが、マニュアルも研修会を実施するというのも、市民に対して昨年の台風を受けて、市が真剣に取り組んでいるという姿勢を示すものですので、積極的に広報した方が良いと思います。

回答6：市長

ご意見ありがとうございます。

質問7：

新型コロナウイルスの感染拡大防止などで年末年始のイベント開催や休暇の分散、感染拡大地域への移動自粛などが出てくると思います。市として何か対策をする予定があれば教えてください。

回答7：市長

在宅・分散勤務に関係して、今後、第4弾となる試行運用を実施する予定で、年末年始に向けて考えてまいります。

回答7：総務部長

在宅・分散勤務の試行運用については、準備したパソコン100台を利用して、来週月曜日から11月末まで約1か月程度実施する予定です。今回の結果を見なが

ら、今後の新型コロナ対策あるいは働き方改革など在宅勤務を検討してまいります。なお、試行運用については全職員が交代で行うこととしており、期間中に1度は触れられるようにする予定です。

質問8：

在宅勤務用のパソコンですが、配布対象となるのは課長級などの職員でしょうか。

回答8：総務部長

管理職も含め、全職員を対象としています。電子決裁などもできるようにしております。

質問9：

電子決裁と言われましたが、これは脱ハンコの動きとして実施するものなのでしょうか。また、県では脱ハンコの動きがあるようですが、市としては何か検討しているのでしょうか。

回答9：総務部長

本市では依然より電子決裁を導入済みです。脱ハンコについては、国がガイドラインを出す予定と聞いており、検討中です。

回答9：市長

対象は全職員ですが、新型コロナが発生したときは、課・部単位でまとまって別な場所で勤務する形になると思いますので、その際の利用を考えています。

以上